

2023年12月1日(金) 晴

12月、今年もまもなく終わる。暖冬といわれるけど、北海道のどこかではマイナス17℃を記録したとか。日本は長い。

－ 守りと攻め －

昨日記者会見で「ほぼ事実」と発表された野球選手の「ハラスメント」。27才にもなって…と思いながら、みていた。何年前からそうだったのか、被害をうけた人たちは今年を通報のタイミングをみたか。

10月のニュースで昨年度の小中学校のいじめ認知件数が過去最高だったと文部科学省の調査結果が発表されていた。この問題はずっと言われてきているけど、増えるばかりとはどういうことか。

CAP (Child Assault Prevention子どもへの暴力防止)プログラムを小中学校でやっているNPOの人たちを知っている。自分を守る、他者を尊重する、そういうことを学ぶ。

たくさんの学校で実施してきて、素行に問題のある子が多いことに驚かされるらしい。そのままいけばどんな大人になっていくか、真剣に心配になる。単発とはいえ、プログラムの実施がせめてもの救い。

日常の中で哲学する。独りでもそうだし、他者とのコミュニケーションでも、そういう社会習慣がついていくことが大事ではないか。雑談の中で今回ニュースが話題にのぼったら、そこから考えをめぐらして、会話を重ねる。そんなシーンがごく普通にあることが日本には特に必要。

身近な生活の中の、人間の尊厳を冒すような言動は絶対許してはいけない、見過ごしてはいけない。自分の精神を守るためにも、正面きって相手を〈攻める〉必要がある。時にその〈攻め〉が相手の〈悪質〉を削ぐこともある。

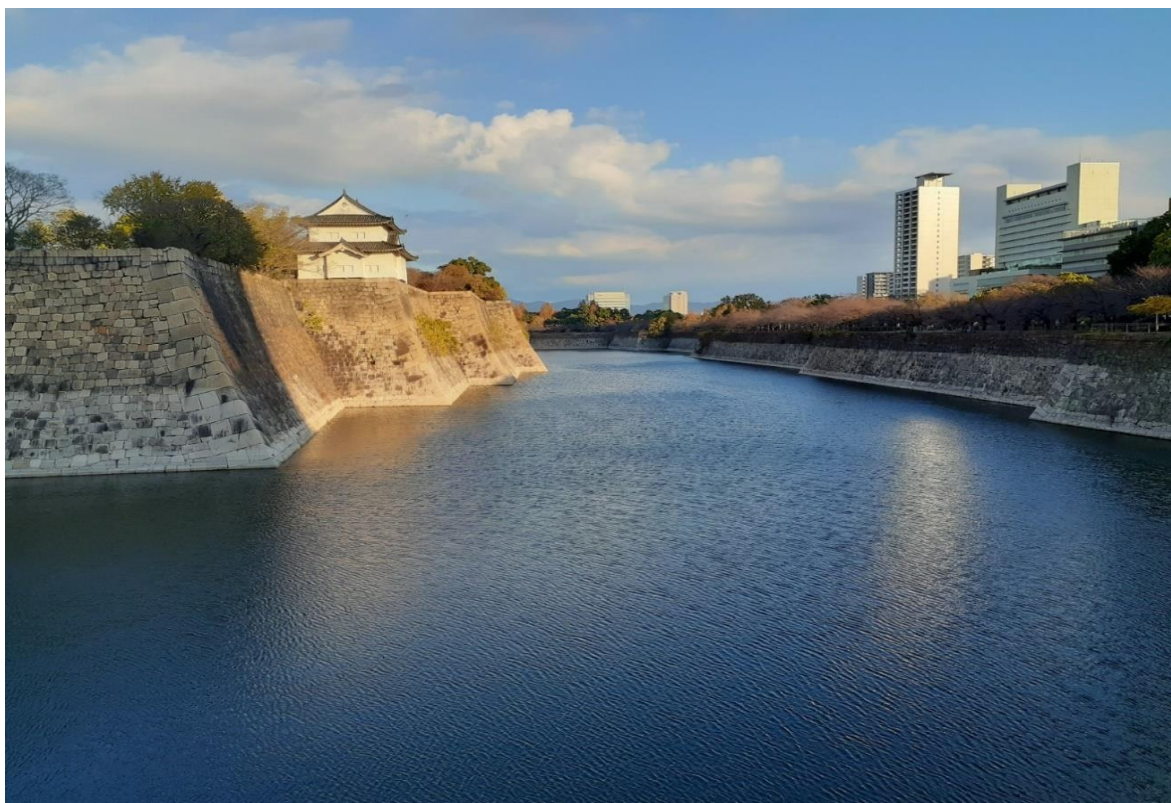
－12月1日の「モンテニュー」－

その一生のあいだのただの一瞬も、しっかりと立ち、安定している魂は、千のうち一つもありはしない。

2023年12月3日(日)

午前中は不安定なお天気だったけど、午後の夕方近くから晴れ

買い物がてら、自転車散歩、銀杏の紅葉、ピーク





2023年12月4日（月）

知人に誘われ、枚岡神社で束の間の紅葉見



2023年12月5日（火）曇→雨

今日は雨の予報。大阪はお昼前ぐらいから降りだすらしいけど、早まりそう。昨日は風もなく、良く晴れ、穏やかな一日だった。明後日は「大雪」。

－ 自分の居場所 －

自分の居場所をどこにおくか。これはけっこう大事なことだと実感したのは会社員時代のことだった。今とちがって正社員でいくらでも転職できた時代、ふとその気になり、外資系の化粧品会社へ入ったことがある。

スキンケア商品を自分が使っていた。いつも買っていたデパートの同ブランドの美容部員たちから一度も押し売りをされたこともなかったから、自分でも美容部員ができそうな感じがした。

ただ、入社して、彼女たちはデパート側の社員だったのを知った。関西地区で採用された人たち全員が東京青山の研修所に集められて、他の人たちをみると、9割方は他社の美容部員からの転職組だった。

研修を終えて配属されたデパートの先輩たちも皆そうだった。どの業界にもその世界ならではのものがある。彼女たちの多くは一般社員が仕事をし出す時間帯に出社し、帰りも遅い。

朝はデパート近くの行きつけの喫茶店でモーニングをとり、化粧品を入念にしながら、朝ごはんを済ませ、夜も行きつけのお店で夕食をとり、ほとんど外食。配属されたところの先輩たちはそうだった。

“それぞれ世界があるなあ…”と先輩たちをみながら思った。2回目からは先輩たちに誘われても、「朝は家で食べるので」と断り、夜はもともと断っていた。新米にしては、つきあいが悪い。

それでも好感してくれた。先輩たちの接し方は何ら変わらなかった。今だとちょっとイジメに合いそうだけど、そんなことは全くなかった。ノルマもあるけど、それほど厳しくも言われなかった。

ただ、自分の居場所ではない、続けられないと覚った。優雅な研修を受けて申し訳ないけど、3ヶ月で退職を申し出た。先輩のリーダーから「実は管理職候補だったのよ」と聞かされたが、去ったのはたぶん正解。

ー12月5日の「モンテーニュ」ー

それにまた、わたしの言葉づかいは、すらすらとした、なめらかなところがない。荒く、横柄で、自由で規範にとられない性質を持っている。そして、そういうのがわたしの気にいっている。わたしの判断によってではなく、わたしの癖によって、だ。しかしわたしは、ときおり度を過ぎてやってしまい、技巧と気どりを避けようと思うために、別の側からそこへ落ちこむことがあるのを自分をよく感じている。……そのようなわけで、たぶんわたしは、書くよりも話すほうがもっとよけいにできる。運動、行動は言葉を活気づける。とくにわたしのように、急激に動き、興奮する人間のところではそうだ。

2023年12月8日（金）

午前中に駒川中野まで行く用があり、帰りに、文の里商店街にあるシェアキッチン「Botan」さんで今日開店している「れんげ堂」さんのランチで腹ごしらえ。昭和感たっぷりの商店街と店舗。落ち着きます。



2023年12月9日(土) 晴れ

外へ出ると、空気がなま暖かい。昨日も日中はポンチョが荷物になった。今日のこの暖かさは絶好の大掃除日和だけど、いつもの小掃除。さて、年内にする気になるか…。

－ 気になる －

♪あの木なんの木、気になる木♪という歌があった。テレビCMのあの大きな木はたしかハワイがロケ地だった。

はっきりと目にみえて気になるものもあれば、ほんの一瞬、一秒もないほどの間に気になることもある。後者の方は、例えば会話中のような、一つの流れの中でのことが多い。

一瞬、頭の隅で“うん？”という感じはしていても、会話を続けることが多いから、そのままになり、自分でも忘れてしまう。

でもその一瞬の“うん？”が、あとあと物をいう。独立してまもない頃はなんとか見逃して、“ああ、あの時…”。自分のある種の直感にちゃんと注目すること、これはかなり大事。判断のよしあしにもつながる。

気になる対象が人の場合、何がそうさせるのだろうか。個人的には、孤軍奮闘の様子がかげえる人だ。今はなかなか陽の目は見えなくても、その努力が時間差で報われる、そう言いたい。

気になることも、人も、自分の中でしっかり気にとめて注目しておく。何かしら必要な時に自分の働きができるように。あらためてそんなことを思う今日この頃。

－12月6日の「モンテニュー」－

りっぱな人たちがあやつり用いる言葉に価値を与える。それも、新しいものにしてというよりは、より活力をみちた多様な使い方ですれをみだし、それを引きのばしたり折りまげたりして、だ。彼らはそこに単語は少しも持ち込まないが、自分たちの単語を豊かなものにし、それらの意味の作用とそれらの使用法に重みをつけ深みを与え、慣れ親しまれていない数々の動きを、それも知恵深く巧みな仕方で、言葉に教えを示すのだ。

2023年12月12日(火) 曇り

ぜんぜん寒くない。先週末からずっとそう。昨日の夕方から夜にかけて雨が降ったのに、羽織るものもいらぬほど。金曜は21度まであがる予報。12月も中旬ですが…。

－ 生きること －

先日お寺さんの若い後継者の方々の話を聴く機会があった。自分たちの存在意義を問い直して、新しい取り組みを模索している。この集まり自体は地域活動に取り組む旧知のNPOの主宰で、「みとり」について考える会だった。すぐ隣の会議室であったから、参加した。

『人間たちに死ぬことを教える者は、彼らに生きることを教えることになる』(モンテーニュ)と同じような考え方は今ではほとんどの人が知っている。古今東西、言われてきていることではあるけど、壮年期以降になると大抵の人が実感することになるのではないかな。

自分の残り時間を自分なりに想定している。すでに10年を切ったが、もっと早まったとして、さてどうだろう。どういう心境になるだろう…。いちおう心身ともに穏やかな状態にある今の段階では、落ち着いて受け入れられそうである。

平々凡々ではなく、かといって極度の混沌まではいかず、デコボコがあって、語るべき過去がそれなりにあり、「人の履歴は、人との出会いの履歴」と実感できるほどのめぐり逢いに恵まれ、親交が続き、自分の思うところを生きて、現在に至る。

無いものもたくさんあるが、それにあまり気をとられないだけのものも得た。そう思えるのが、いい。まだ自分に課したタスクが残っている。これまで同様、無理はせず、でも努力は重ねて、やり遂げよう。

—12月11日の「モンテーニュ」—

わたしの言う友情の場合は、ふたつの魂がおたがいに相手のなかにまったく全面的な混合の仕方でも混じり入り溶け込んでしまい、それらを結びつけている繋ぎ目が消え、わからなくなっているほどなのだ。もしひとつが、わたしがなぜ彼を好きだったか言わせようとするれば、それは彼だったから、それはわたしだったから、と答える以外に言いあらわしようはないと思われる。

2023年12月15日(金)の「読書」は保存せずじま이었다ようです。

2023年12月19日(火) 曇り

今日は夕方近くから夜にかけて雨の予報。といっても1ミリ、大阪市内は降らないかもしれない。寒くなって年の瀬の感じがしてきた。22日は冬至。

—トラブル回避—

会社員時代も独立してからも報酬のことでトラブルになったことはない。こちらから諦めたことは一度だけある。ある公的機関の起業セミナーの講師の依頼があった。そのセミナー事業を受託した会社が最後の一回分を後日振り込むとあって、振り込んでこなかった。

催促してもよかったけど、たぶん応えないだろうとふんだ。正式な依頼のために事務所を訪れた時に違和感があった。公的機関の担当者も一緒だったが、どうしてこの会社に委託したのだろうと不思議なぐらいだった。

地元の縁で上が決めたのか、担当者の女性は同席しているのを嫌がっているようにさえ見えた。協働してセミナー事業をやっているのに、仲間感はまったくなかった。こちらへの接し方はいたって穏やかで親しみを感じるのに。

もともと「目先の利益に囚われまい」を信条としているので、おカネのことで不愉快な思いをする場面を回避できている。この時の公的機関の担当者はまさか未払いのままとは想像もしていないと思う。

こちらがスルーする気になったのは、最初の印象の段階から、あり得そうだし、何より「自転車操業」の様子が、何度か話していて、みてとれたからだ。人間隠せないものjがある。

ま、30年以上やってきて、この程度の一回なら、さいわいなこと。

－12月19日の「モンテニュー」－

本性からよく生まれついた女性たちは、もしわたしの言うことを信じるならば、その本来の生まれながらのゆたかな性質を発揮することで満足するのがいいだろう。彼女たちは、その美しさをほかの美しさによって蔽いかくしている。借りものの光で輝くために自分をおし殺すのは、ひじょうに単純な愚かしさだ。彼女たちは人工の要素の下に埋まり、葬られている。……彼女たちは自分たちのことがよくわかっていないのだ。世の中に女性以上に美しいものはない。

2023年12月22日(金) 冬至 晴れ

暖冬傾向の中に急な厳寒、風も強く、外を歩くとカラダに凍みる。今朝、門松をみた。駅へ急ぎながら、はやいなあ、もう門松?と思って、あっ、そうか。今日は冬至。

－ 年越し －

いまの事務所に引っ越してきてから、「きんつば」を手土産にするようになった。ビルの反対側に大阪で名店の北浜店がある。近くにこういうお店があると助かる。今日は冬至だから、散歩がてら知り合いの所へ季節のご挨拶代わりに届けた。これも季節の風物詩、個人的な年越しタスク。

仕事の方は一つの流れの中にあるので、いいとして、仕事以外のことで、年を越してしまわない方がいいこと、そういうものがある。大抵は相手のあることで、例えば、「一段落したら、食事でも一緒に行きましょう」とか。ともあれ、今年の年越しTO DOは9割がた済んだ。

あとは来る年の自分の流れを読むこと。ずっと積み重なってきている大きな流れに、また積み重なる当年、そして新年。年末ここに来ての小さな出来事や変化に注目するようにする。

“ひょっとすると、これは……”。今はそんな感じで物事をみている。さて、年が明けたら、“ああ、やっぱり……”となるか、どうか。

－12月21日の「モンテニュー」－

ここにある、これほどの種々さまざまな書きなぐりの束は、あまりにも力のこもらない暇な状態がわたしを押しつめたときにだけ、そしてわたしが家にいるときにだけ手をつける、という仕方で行く。そのため、それは、何度も中休みをし、間隔をおいてできあがったものだ。いろいろな用務で何か月もわたしが他のところへ縛りつけられる、というようなことが起るからだ。

ところでわたしは、初めに書いた考えの数々を、次に現れてきたさまざまなものによって訂正することは全然しない。たしかに場合によっては、何かの語を、とり除くのではなく、修正することもある。わたしは、わたしのさまざまな想が進んでいく様子をあらわし出したいのだ。どうかその個々の部分の生まれるところを見ていただきたい。

2023年12月26日(火) 晴れ

クリスマスも終わり、あとは迎春準備へ一気に進む。年末年始は暖かい予報。まずは穏やかな幕開けでありますように。

－ わからないことだらけ －

12年前に出た本で『宇宙は本当にひとつなのかー最新宇宙論入門』(村上斉)はおもしろかった。地下鉄の車内で向いの人も同じ本を読んでいるのを見て、売れてるんだ…と思った。

本の冒頭部分で宇宙の物質でわかっているのは4,5%と書いてあった。この割合はいろいろは事象、事物に当てはまるんじゃないかと思った。当時、起業して10年もつのは一割、でも元気で残っているのはその半分、4,5%と言われていた。

ずいぶん前に何かで読んだ気象の話。技術が発達して、わかったことは、気象のことはそう簡単にわからないということだった。人間のことも、たぶん、そうだろうと思った。人間関係も、互いに知り得ているのは4,5%ぐらいと思えばいい。だから伝え合う努力は必須だと。

日経の日曜版には社会面の右面に「科学の扉」がある。いつかは、「顔ダニ」のことが書かれていた。誰の顔にもダニがいて、夜に活動するのだそう。皮脂をエサに人間に住みついて、共存している?! まるでペットを飼っているような…。

先日はまた興味深いことが載っていた。「植物は多彩な〈声〉で訴える」のヘッドライン。トマトは乾燥や傷に反応して超音波を出すのだそう。これを読んだだけでも植物が愛おしくなる。

神は細部に宿るといった人がいる。わからないことだらけの中で、何か一つわかってよろこぶ人間のこころ。

－ 12月26日の「モンテニュー」 －

わたしはさまよう。それも、うっかりというよりは、むしろ自分で許してそうするのだ。わたしの数々の考えは、たがいに続き合っているが、場合によっては遠くへただって続く。また、たがいに見合っているが、しかし横目でなのだ。……わたしは飛んだりねたりする詩の進み方を好む。……そして、節度なく、やみくもに、変化を追う。

2023年12月28日(木) 晴れ

年末年始は暖かいらしい。大晦日は雨のようだけど、それなら、たぶん元日は空気があらわれ、すっきりとした晴れ空が広がるのではないかな。そうねがいたい。

ー ゆく年くる年 ー

個人的にはまずまず穏やかな一年だった、仕事でもプライベートでも。立春早々に、“ひょっとして今年は久しぶりの人に会う年か?”と感ずることがあった。実際にそうなり、何人かと「旧交温め合う」ことになったのはうれしいことだった。

さらに一つ、うれしく、印象的なことは、ずっと続く人間関係の、折に触れての深まりだ。知った間柄での、その人の人間性や精神性の深い淵の一面をかい間知る。あらためて感謝する、出会い。

2024年はどんな年になるか。時代の流れ、自分の流れは…。来年の今頃はまた、どうふりかえっているかしら。

ー12月28日の「モンテーニュ」ー

しかし彼はいつそうすぐれた、いつそう賢い人間になっているかがどうか問題の根本だったのに、それはうしろに置き忘れられている。だれがもっともよく知っているかをしらべなければならなかったのだ。誰がもっとも多く知っているかをではない。われわれは、ただ記憶をいっぱいにして、理解力と良心を、からのままにしておく。

2023年12月28日(木)

本町のフレンチ「Giro」、恒例のクリスマス・ディナー女子会

「オモウマ」に出て以来、客足は絶えないそう。それでも、まったく変らないジローさん、あまりに忙しくて、ちょっとお疲れのご様子でした。

今回は写真を忘れず、でもデザートは食べるのが先でした。







2023年12月30日（土）

自転車で買い物、帰りに大阪城公園、冬の日暮れ空





2023年は、個人的には公私ともに穏やかにすぎた一年でした。旧知の人から東宝の株主優待券を頂戴し、「Perfect Days」を28日に観て、意外にも日に日に余韻がまし、ゆく年とくる年の架け橋になっているような感覚の年越し大晦日。(12/31)